

中学校 歴史的分野 社会科学学習指導案

1 単元名：身近な地域の歴史

小単元名：身近な地域の歴史と観光（6時間扱い）

2 小単元の目標

- ・身近な地域の歴史の学習を通じ、地域の歴史的特色や魅力に気付き、地域に対する愛着を深めるとともに、身近な地域の歴史的事象の意味や深層を理解し、歴史を学ぶ意欲や歴史学習への興味・関心を高める。
- ・現地での見学・調査を踏まえ、地域の有識者との面談、話し合いや議論するなど、調べたことや考えたことをまとめて、表現するなどの主体的・対話的な学習を通じ、「歴史の調べ方」「課題の見つけ方」「課題の解決の仕方」「調べて解決した内容を表現していく力」など歴史の学び方を身につける。
- ・身近な地域の博物館や郷土の歴史資料館をはじめ、展示資料や取り扱われている史跡、関係する歴史的な景観や遺物など地域にある歴史学習の資源を観光資源として来館者や地域の観光の魅力ある資源として意識させることで、一層の郷土への愛着を育成するよう工夫する。

3 小単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう姿勢
<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域の博物館などの展示内容から、郷土の歴史的事柄・事象を理解することができる。 ・当該館に関する資料やグラフなどから、当該館の現状と課題を読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域の歴史的資料館の特徴や課題から、多くの人が訪れる方策を考え、適切な提案を選択することができる。 ・身近な地域の歴史的な特徴を他の人にもわかりやすく表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域の歴史的施設にさらに多くの人が来場してくれるように、どんなことをすればよいか積極的に考えることができる。 ・歴史を自ら進んで学ぶ態度を身に付け、他の意見など受容し、深い学びを得ることができる。

4 教材の特色－「観光」の視点から

中心となる観光の要素：身近な地域の理解、郷土愛、地方創生、観光資源の創出、情報発信

- ・身近な地域の歴史の学習は、生徒の知識や経験を伴い、生き生きとした具体的な学習となる。
- ・各地域には、規模の大小を問わず、郷土の歴史を伝える博物館や資料館、特色ある美術館などが存在し、専門的知識を持った学芸員などが在駐している。これらを調査対象とすることで、地域の施設・学芸員の専門性を活用し、効果的な調査の手法が学べ、展示・収蔵品の歴史的価値から地域の歴史に興味をもって考えることができる。
- ・調査・見学・発表の学習は地域を掘り起こす力を持ち、ひいては地域の観光に結び付くことが可能である。学芸員の話や、施設の利用状況等から、訪問者（観光客）の視点に立って来館者を増やす工夫を考えたり、まとめた考えを発表し、周囲から評価を得たりすることで、周囲を巻き込んだ地域創生の機会となり、主体的な学びが期待できる。
- ・今まで見過ごされてきた事柄について、興味深い所、物、人、事を作り出すことができれば、観光を生み出すことにつながる。自分たちの身の回りの全てが可能性を秘めたものとしてうつり、郷土や歴史に対して、より関心が高まり社会科教育の目指す公民的資質の向上につながる。



5 指導計画（6時間扱い）

- 第1時 [調べる] 地域にどんな博物館・美術館・資料館などがあるか調べよう
- 第2時 [しぼる] パンフレットやネットで訪問する施設を決めて、特徴を調べよう
- 第3時 [訪ねる] 施設を訪ね、学芸員さんから施設の魅力聞き出そう
- 第4時 [話し合う] 調べたこと・学芸員さんの話から、施設の良いところ・課題を話し合おう
- 第5時 [再訪する] 探し出した当該館の魅力（観光資源）や課題を見つけ提案を考えよう（本時）
- 第6時 [発信する] 施設の魅力伝える観光案内をつくり、効果的な発信をしよう

6 本時（第5時間目／6時間扱い）

(1) 本時の目標

- ・当該館を再度訪問し、学芸員の方と、学校で調べたことや話し合ったことをもとに質問や疑問などを話し合ったり議論したりして、主体的・対話的に学ぼうとする態度を養う。
- ・観光の視点を含め当該館や当該館に関する地域の史跡や遺物を観光資源とするための提案を行い、当該館の発展に寄与するとともに郷土への愛着を養う。
- ・上記の活動を通して、身近な地域の歴史を再確認し、歴史学習への意欲を高め、歴史の学び方を獲得し、主体的・対話的な深い学びを体験する。

(2) 本時の展開

選	○学習活動 ・学習内容、予想される児童の反応	☆指導上の留意点、資料 【評価基準】（評価方法）
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○当該館の再訪問の目的について確認する。 ・ 前回の調査内容の報告や疑問点の質問をする。 ○学校で話し合った当該館の魅力や課題について報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆前回の訪問に対してのお礼・挨拶。 ☆議論が分かれた点などを強調する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○学芸員の方に、報告に対するご意見を伺う。 ・ 着眼点や説得力（根拠）についての評価、当館で大切にしていることなどを聞き、自分たちの報告内容を振り返る。 ○今までの調査や見学の中から疑問に思ったことを質問する。 ・ 多くの人が訪れる施設としての観光資源としての施設という視点も提案する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 学習問題 当該館が観光資源として、地域の人々や地域外の人たちなど多くの訪問者がやってくるための提案を考える。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ☆学芸員さんと生徒たちが和やかに議論できる雰囲気を作る。 ☆資料（第2・3時で使用） ・パンフレット（目玉展示物等） ・入館者数・訪問時期の推移 ・入館者の感想等
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議論したことから得た内容について確認する ・ 学芸員さんから再訪についての感想や意見を伺う。 ・ 今後の学習の取り組みについて説明する。（観光案内作成と効果的な発信について） 	<ul style="list-style-type: none"> ☆意見として、まとまらなくても良い。いろいろなアイデアを出すことを第一義とする。 ☆調査や議論を生かし、提案のねらい・根拠を明らかにするようにする。

中学校公民的分野 社会科学学習指導案

1 単元名：市場の動きと経済

小単元名：私たちの暮らしと経済（6時間扱い）

2 小単元の目標

- ・経済活動の意義について、生徒たちの身近な消費生活への視点を大事にしながらか経済活動が人間生活の維持向上を目的とするものであり、経済活動は豊かな生活を送るための手段であることを考えさせる。
- ・経済活動の意義を学習する上で、自分たちの消費生活の視点から生活の実感を伴って経済について興味関心を持ち、課題を追究していこうとする態度を養う。
- ・経済活動における、対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などについて着目しながら「身近な消費生活」「市場経済の基本的な考え方」「市場における価格の決まり方」「資源配分」「現代の生産や金融などの仕組みや理解」「勤労の権利と義務」「労働組合の意義及び労働基準法」などを対話的な活動を通じて理解することを支援する。
- ・「個人や企業の経済活動における役割と責任」「職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善」についてはグループ討議やディベート、ジグソー活動など多様な形態での学習を通して、多面的多角的な考察を行い、思考力、判断力、表現力等を育成する場面を設定する。

3 小単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	学びに向かう姿勢
<ul style="list-style-type: none"> ・身近な消費生活を中心に経済活動の意義、市場における価格の決まり方や資源の配分など、市場経済の基本的な考え方について理解することができる。 ・現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解することができる。 ・勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法について理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済活動の意義を学習する上で、自分たちの消費生活の視点から生活の実感を伴って経済について興味関心を持ち、課題を追究していこうとする。

4 教材の特色－「観光」の視点から

中心となる観光の要素：地方創生、観光産業、観光資源の創出、持続可能な観光

年々増加する外国人観光客（2014年1,000万人→2018年3,119万人）の実態を例に、日本の観光産業は今後の動向が注目される。「私たちと現代社会」で学習した我が国の少子高齢化を踏まえて地方の過疎化解決に向けた地方創生という面からみると地域経済を支える外国人観光客と観光資源開発という面は今後の経済活動にとって重要な視点になると考えられる。また、同様に学習した「情報化」をベースに観光産業に光を当てれば、各種の情報伝達手段の進展（スマホ、アプリ、チャット等）による外国人の相互ネット情報での訪日客の増加や訪問地探索、観光資源の創生、副次的に観光に伴う農産物輸出額や商品購買額の増加などが考えられる。経済活動の視点からは訪日観光客の消費額の急増（2012年1兆0,846億円→2018年4兆5,000億円）などは将来の我が国の経済発展を考える上で大きな趨勢であり、観光産業が次の世代の経済活動の重要な位置を占める可能性があることには注目する必要がある。



5 指導計画（6時間扱い）

- 第1時 身近な消費生活から経済について考えよう
- 第2時 価格の働きについて考えよう
- 第3時 金融の働きについて考えよう
- 第4時 日本の産業の特色と企業の役割について考える（本時）**
- 第5時 企業の経済活動と社会的責任について考える
- 第6時 勤労の権利と義務について考える

6 本時（第4時間目/6時間扱い）

(1) 本時の目標

- ・現代の生産や金融などの仕組みや働きについて、仮想の町づくりを通じて考え、経済活動の具体的なイメージを持つ。（知識、理解）
- ・様々な経済主体（企業、家計、政府・地方公共団体）の立場から経済活動を考える視点（経済的な見方・考え方）を持つ。（思考力、判断力、表現力の育成）

(2) 本時の展開

選	○学習活動 ・学習内容、予想される児童の反応	・指導上の留意点、☆資料【評価基準】（評価方法）
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の経済を支えている産業、また、最近、成長が著しい産業を挙げ、その要因を考える。 ・自動車産業 IT産業 石油化学産業 ロボット産業… ・観光産業がこれほど大きな経済効果を上げているのは知らなかった。 <p>学習課題 私たちが住む地方のまち（人口1万人）が観光地として開発されたら、まちの経済活動にどのような影響があるだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ☆各産業の最近10年間の生産額と伸びのグラフ ・観光産業の生産額と伸びを抽出しておく。 ☆新聞記事「政府の観光産業推進政策」
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外から多くの観光客が来るようになり、ホテルや商店ができる。 ・周辺地域も含め、経済活動（モノやサービス、お金）が活発になる。 <p>○観光地としての環境や施設の整備を整えて、発展させていくために必要なモノやサービスを、各グループでカードに書きだす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホテル（旅館） 道路 交通手段・機関 お土産と販売店 ガイド（通訳） 案内所 観光パンフレット 警備 自然保護 運輸通信 レンタカー… 	<ul style="list-style-type: none"> ・【前提】仮説の「地方のまち」の状況を具体的に設定する。 ・人口1万人（高齢化率4割）で、過疎化が進んでいた。 ・美しい海と自然豊かな山は残されていた。 ・最近、良質な温泉を掘り当て、大手の不動産会社が、国、県、市と協力して観光開発に乗り出した。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○各グループでカードに書いたモノやサービスがきちんと働き、動き出すためには、さらにどんなモノやコトが必要になるか、考える。 ○カードの裏に考えられるだけ書く。（次の時間に確認する） 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路工事に必要な人・モノ・サービスなど、経済活動のつながり（生産と消費）をイメージさせる。 ・ホテル旅館の客となって考えるなどのイメージを豊かにする。 <p>【思判表】（カード）</p>